

(様式2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 24年 12月 2日

所属：秋田大学医学部 学年：1年
氏名：藤田環
研修先大学・機関名等 (国)：ケニヤッタ大学 (ケニア)
在籍身分：
渡航年月日： 2012年 9月 1日
帰国年月日： 2012年 9月 22日

○研修先での学習内容等

開発途上国への支援について、日本人の方が運営している孤児院とスラムを訪れて、実際に働いている方の様子などを見せていただいた。また、動物愛護の観点から、森林保護を推進している方の事業をお手伝いしたりした。サファリも訪れた。ケニヤッタ大学では、教員のストライキという日本では考えられない事態に直面し、授業見学が不可能になりながらも、現地の学生と交流を深め、日本フェアを開催して異文化交流を深めることができた。

○研修期間の生活面について

孤児院では、ケニアの庶民の生活と同じ生活を体験することができた。食事など質素だったがとても充実した時間を過ごすことができた。その後、ホテルに泊まったりして国内での格差を肌で感じることもできた。体調を崩すことはあまりなかったし快適に過ごすことができた。

○研修期間全般にわたる感想

ケニアに行ってみて、実際に開発途上国への支援を見て、自分の国際支援に対する今までの考えは打ち砕かれた。しかしまだ新しい見方が固まっていない。支援するにしても、その土地や人々のことを知りもせずに考えているだけでは何もわからないし、ともに同じ時間を生きるものとして支えあうという考えで対等に向き合わないといけないことがわかった。必要以上に介入することはケニアが自立し、きちんとした経済や教育の基盤を持つ国家に発展していくことを妨げるし、輸入され

(様式 2)

た基準がケニアに合っているとは限らない。かといって、苦しい生活を強いられている人たちも多く存在し、支援は実際に必要なのだ。ここでもバランスが大切だと思う。

私は、ケニア人が自らで変えていこうとする姿を見ていたい。とてもエネルギーにあふれている、やさしくて陽気なたくさんのケニアの友人たちならば良い方向に国を変えていけるだろう。国際支援とは何より先に、その国のことを知り、好きになるということが大切なのではないだろうかと思った。

○今後の勉学計画

他国に行った際に時刻との比較ができるようにもっと時刻の勉強をいたほうが良いと思った。

特に日本人は無宗教といわれるが、外国では信仰を持たないほうが珍しい。日本の宗教について、また歴史についてしっかりと勉強しなおそうと思う。それから、国際協力や国際支援について興味はあるが知識が追いついていないので勉強したいと思った。